

府立出来島支援学校 R7_学校教育自己診断アンケート 結果分析

(配付：11月28日 回収締め切り：12月23日（1月19日提出分まで集計）)

●**児童生徒用 回答数 159 (小：58 中：65 高：36) 回答率 67.4%**

(Aはい、Bいいえ、Cわからない)

昨年度、回答数が半数に届いていなかった（回答率 43.1%）が、保護者用アンケートをフォームと紙面併用にしたところ、家庭で一緒に回答してもらったのか、一気に回答率が上がった。

【保護者用アンケートとの比較】（太字数字は、肯定評価、カッコ内数字は、R6年度の数値）

①学校は楽しい	88.7% (86.4%)	⇔ 保護者①子どもは学校が楽しみ	83.8% (80.3%)
②大切にされる	90.6% (85.2%)	⇔ 保護者②教職員の人権尊重姿勢	91.9% (88.6%)
③将来のこと	50.9% (51.9%)	⇔ 保護者④進路指導の充実	84.9% (74.3%)
④いじめのこと	65.4% (51.9%)	⇔ 保護者⑤いじめへの対応	62.1% (52.3%)
⑤相談できる先生	68.6% (60.5%)		
⑥ルール教えている	86.8% (76.5%)	⇔ 保護者⑥ルール守る態度養っている	90.2% (81.8%)
⑦行事が楽しい	86.8% (87.7%)		
⑧タブレットの使用	81.8% (79.0%)	⇔ 保護者⑭授業での ICT 機器活用	81.1% (72.0%)
⑨先生の理解	84.9% (79.0%)	⇔ 保護者⑨教員の障がい・特性理解	92.4% (88.7%)
⑩防災学習のこと	87.4% (79.0%)	⇔ 保護者⑮防犯防災学習の充実	88.1% (72.8%)
⑪交流学習のこと	75.2% (58.0%)	⇔ 保護者⑬交流及び共同学習の充実	83.8% (74.2%)

保護者アンケートと比較してみると、昨年度同様、対応している多くの項目でポイントに大きな差がないことがわかる。児童生徒本人が学校の教職員及び教育活動に対して思っていること、感じていることと、保護者のそれに乖離がなく、どちらにおいても、ほとんどの項目で肯定的評価があがっている。

○ ②「自分のことを大切にしてくれる」が、11項目中最も肯定的評価が高く、唯一9割の肯定率だった。保護者からの「教職員の人権尊重の姿勢」の評価とも呼応している。1年めから比較的高い評価項目であったが、今年度も引き続き、担任を中心に児童生徒とも家庭とも、日々関係性を大事に教育活動を進めていることが、数字に表れているといえる。

○ 児童生徒の教員への信頼があって、特徴的な教育活動また行事が行われているからか、①「学校は楽しい」、⑥「ルールの大切さ教えてくれる」、⑦「行事が楽しい」、⑨「先生はわかってくれる」、⑩「災害時の対応教えてくれる」も8割5分以上の肯定率にあがった。

△ ③「将来や進路について教えてくれる」は、昨年度に引き続き〈わからない=C率〉が48.4%と高い。学部別にみると、高の肯定率 77.8% (R6:85.7%) 中の肯定率 60.0% (R6:50.0%)、小の肯定率 24.1% (R6:37.9%)。保護者の肯定率が約85%まであがったのに比べ、中学部以外は肯定率が下がる結果であった。進路の取組み自体は出来島支援の特徴的なものであり、系統的に進めていくうえで、必ずしも全ての児童生徒が進路に関する学習を「将来」と結び付けられていなくてもよい。段階的に近づいてくる将来を「自分事」として捉えられるようになることが望ましく、小の高学年から徐々に肯定率があがり、中で半数以上、高段階では8割が進路を意識できていればよいともいえる。

● ⑤「担任の他に気軽に相談できる先生がいる」は、昨年度から肯定率はあがっているが、教職員アンケート⑥「子どもや保護者が担任以外に相談できる体制が整っている」（肯定率 73.3% 否定率 16.8%）の数値とも相関する結果である。児童生徒が、学級担任との安定的な関係性を中心に、そこから安心できる範囲を徐々に広げていくことは、進級や進学、進路を考えていくうえでも重要である。まずは、教員間において異学年同士での活動や指導者交流を促進し、学級・学年・学部の垣根をより低くして、一緒に学校で学ぶ児童生徒を学校全体で見守る、育てる意識が広がってくるとよいと考える。

●保護者用 回答数 185 (小: 66 中: 72 高: 47) 回収率 86.9%

(A よくあてはまる、B ややあてはまる、C あまりあてはまらない、D まったくあてはまらない、E わからない)

児童生徒用同様、フォームと紙面を併用することで約 10p 回答率が上がった。16 項目中、肯定率 (A +B) 90%以上が7項目 (内〈A よくあてはまる〉が 70%以上が5項目)、85%以上が3項目、80%以上が5項目。昨年度は8項目で[わからない]を選んだ割合が 14~44%だったが、今年度は 10%(10~35%)を超えたのは6項目。保護者に学校の取組みを見ていただき、協力・理解が進んできている数字と言える。

【肯定率が高かった項目】

⑪「個別の指導計画」の学習内容・評価がわかりやすい	95.7% (A:78.9%) (R6 : 95.4%)
⑩「個別の教育支援計画」は相談しながら作成・活用できている	92.9% (A:77.8%) (R6 : 92.5%)
⑧学校の授業参観や学校行事に参加したことがある	92.9% (A:72.4%) (R6 : 95.4%)
⑨教職員は子どもの障がいや特性について理解している	92.4% (A:68.6%) (R6 : 88.6%)
⑯給食は安全で、正しい食習慣が身につくよう行われている	91.9% (A:75.1%) (R6 : 79.6%)
⑫教職員は子どもの人権を尊重する姿勢で教育活動をしている	91.9% (A:71.9%) (R6 : 88.6%)
⑥学校は社会のルールを守る態度を養おうとしている	90.2% (A:68.6%) (R6 : 81.8%)

○ ⑪「個別の指導計画の内容・評価がわかりやすい」、⑩「個別の教育支援計画は相談しながら作成・活用できている」の数値が、昨年度に続き、高い肯定率を維持している。学校での取組み・学びと個々の成長について、家庭と学校とが共有できていると数値と言える。⑧「授業参観・行事への参加」、⑨「教職員の障がいや特性の理解」は9割、③「子どもへの適切な言葉かけ」も約 89%であるなど、取組みの様子を実際に見ていただいたうえで、児童生徒と教職員の学習活動上の関係性なども一定高く評価いただいている数値である。

△ ①「子どもは学校へ行くのが楽しみ」(肯定率 83.8% 否定率 12.9%)、②「子どもは授業がわかりやすいと言っている」(肯定率 80.6% 否定率 9.2%)は、昨年度からは肯定率もあがっているが、他の設問に比べると肯定率は高いとは言えず、否定率が他の項目より高い。また、自由記述欄での要望を含む意見でも授業に関しての意見が複数見られる。出来島支援学校は、他の学校よりも教科学習の時間が多く、行事関連の特別時間割も少ない。教職員の授業改善・授業力向上への意識は高いことから、子どもにとってわかりやすい授業が今後も増え、「今日は国語の授業あるから、学校が行くのが楽しみ」等、一つひとつの授業が児童生徒にとって魅力あるものとなるよう、これからも学校をあげて授業改善に取り組んでいく必要がある。

○ 学校の特色である、キャリア教育・防災教育・交流教育についての項目は、昨年度いずれも〈E わからない〉が2割を超えていたが、④「学校は進路指導の充実、情報提供に努めている」(肯定率 84.9% R6:74.3%)、⑮「学校は防犯計画・防災学習の充実に努めている」(肯定率 88.1% R6:72.8%)、⑬「地域との交流及び共同学習の充実に努めている」(肯定率 83.8% R6:74.2%)は、わからないが 10%台になり、肯定率があがっている。⑦「学校は教育情報の提供の努力をしている」(肯定率 87.0% R6:81.0%)の肯定率もあがっており、昨年度に比べて学校からの情報発信が一定の評価が得られていると言える。昨年度の分析で「進路や防災の取組みは、PTA と連携して進めていくことができる分野である」としていたが、PTA 行事である進路見学会や研修会、授業参観週間に合わせた防災避難訓練など、進路や防災関連の行事に実際に参加される保護者が今後も増えれば理解がより進むものとする。

【否定率が他と比較して高かった項目】

①子どもは学校へ行くことを楽しみにしている	否定率 12.9% (R6 : 14.4%)
②子どもは授業がわかりやすいと言っている	否定率 9.2% (R6 : 7.5%)

【わからない (E 率) が高かった項目】

⑤いじめについて子どもが困っていれば真剣に対応してくれる	E 率 35.1% (R6 : 43.9%)
⑭授業などでタブレットなど ICT 機器を活用している	E 率 16.8% (R6 : 24.2%)

●教職員用 回答数 101 (小: 33 中: 37 高: 25 他: 6) 回収率 97.1%

(A よくあてはまる、B ややあてはまる、C あまりあてはまらない、D まったくあてはまらない、E わからない)

18 項目中、肯定率 (A+B) が 90%以上の項目 5、85%以上の項目 6、80%以上の項目 2。全体的に多くの項目で肯定的評価が昨年度より下がる結果となった。肯定的評価中 (A よくあてはまる) が 60%以上が 2 項目のみ。肯定率 87%以上の 10 項目でも 5 項目は (A よくあてはまる) の割合が肯定率の半分以下。

【肯定率が高かった上位 10 項目】

⑨児童生徒の人権を尊重し、日常の教育活動を行っている	96.1%	〈A:62.4%〉	(R6 : 96.5%)
①教育活動について教職員で日常的に話し合っている	96.0%	〈A:59.4%〉	(R6 : 97.6%)
⑩給食や授業で食に関する支援・指導に努めている	95.1%	〈A:53.5%〉	(R6 : 95.2%)
⑦学校行事に参加しやすい工夫・改善を行っている	94.1%	〈A:60.4%〉	(R6 : 95.2%)
⑪研究授業・研究協議をとおして授業改善に努めている	93.1%	〈A:43.6%〉	(R6 : 94.1%)
⑭学校防犯・防災に対する意識が高まっている	89.1%	〈A:39.6%〉	(R6 : 88.2%)
②学校活動全般にわたる評価を次年度の計画に生かしている	87.1%	〈A:36.6%〉	(R6 : 87.0%)
⑧児童生徒・保護者・地域への情報周知に努めている	87.1%	〈A:38.6%〉	(R6 : 90.6%)
⑩個別の指導計画を児童生徒の支援・指導に活用している	87.1%	〈A:44.6%〉	(R6 : 94.1%)
⑫他教員の授業見学など授業づくりの参考にできる機会がある	87.1%	〈A:42.6%〉	(R6 : 94.1%)

○ 保護者からのニーズも高い授業力について、昨年度からそれぞれ数値が下がったとはいえ、①「教職員で日常的に話し合っている」(肯定率 96.0%)、⑪「研究授業・研究協議をとおして授業改善に努めている」(肯定率 93.1%)、⑫「授業見学など授業づくりの参考にできる機会がある」(肯定率 87.1%)が上位にあることは良いこと。「授業力・指導力をチームとして高めあえる日々の指導者交流体制の構築」を掲げる学校にあっては、⑬「初任者等へ授業づくりの支援を行っている」を含めて、90%の肯定率を保ち、授業研究、授業力向上の風土を継承していきたいところである。

○ ⑨「児童生徒の人権を尊重し、教育活動を行っている」(肯定率 96.1% A率 62.4%)は、肯定率、A率ともに自己評価が最も高く、昨年度は保護者評価とは 8~9p の開きがあったが、今年度は保護者評価も 91.9% (A率 : 71.9%) と 9割を越えて差が縮まっている。保護者の自由記述欄には少数の厳しい意見がまだあり、子どもへの日常的な言葉かけにも細心の配慮が自然にできる学校をめざし、これからは教員一人ひとりの高い問題意識と相互の気づき、言葉かけにより改善を続けていく。

【否定率が高かった (否定率が 10%以上の) 項目】

⑮学校運営に教職員の意見が反映されている	否定率 25.8%	(R6 否定率 : 27.1%)
⑯教職員が意欲的に校務に取り組める環境にある	否定率 24.8%	(R6 否定率 : 22.4%)
⑰教育活動・学校運営に對しやがいを感している	否定率 18.8%	(R6 否定率 : 14.2%)
⑬初任者等に授業づくり等の日々に支援を行っている	否定率 17.9%	(R6 否定率 : 5.9%)
⑥子どもや保護者が担任以外に相談できる体制が整っている	否定率 16.8%	(R6 否定率 : 15.3%)
④興味等に応じて進路選択できるよう保護者と連携している	否定率 11.9%	(R6 否定率 : 11.8%)

● 否定率 (C+D) が 10%以上の項目が 6 項目あり、そのうちでも高い 3 項目は、昨年度同様、学校運営や仕事への意欲・やりがいに関する項目である。⑮「学校運営に意見が反映されている」(肯定率 59.4%)、⑯「意欲的に校務に取り組める環境にある」(肯定率 66.3%)は、肯定率も他の項目に比して低く、自由記述欄にも「小学部運営の大変さへの寄り添いの視点を入れてほしい」「先生方に支えられて今の状況があることを校長に知っておいてもらいたい」「地道な努力にも注目して、労いや温かい言葉があればもっとよい職場になると感じる」との意見が昨年度同様にある。ストレスチェックでも、仕事の質的・量的負担感が他校より大きく、更に管理職からのサポートを感じられないという実態がストレスを増大させているという集団分析結果があがっている。管理職 (特に校長) が、今後努めて各学年学部の実態、教職員のがんばりを把握し、日々教職員一人ひとりとコミュニケーションをとり、業務の質的・量的負担感を軽減するための方策を検討していく必要がある。